

20230919 【Climate Live Japan】気候変動の解決を訴える学生主催の 音楽ライブ

1970年4月22日、アメリカで環境問題について行動を起こす集会が開かれたことをきっかけに、地球や環境のことを考え、美しい自然環境に感謝する日として提案された「アースデイ」。毎年4月22日には、世界各地で大規模なイベントが開催されています。

2021年4月24日「#ウチらの声で、世界は変えられる」をテーマに、学生が主体となって、気候変動への理解と行動喚起を目的に開催する音楽ライブイベント「Climate Live Japan」がYouTube開催されました。このイベントには、環境問題などを自由に表現・発信するモデルや、環境活動家、環境問題への取り組みをしている企業人などをゲストに迎えたトークセッションも実施されました。普段気候変動問題について意識していない若者に対しても、音楽の力で“気候変動の危機感”や“取り組んでいくことへの希望”をメッセージとして伝えました。さらに、Climate Live Japanの活動に賛同したアーティスト、一青窈さんもゲスト出演しました。一青窈さんは慶應義塾大学 環境情報学部を卒業しており、自身の活動としてこれまでも、さまざまなメッセージを発信されてきましたが、Climate Live Japanについて「自分の頭で考え 心がヤバイ。と感じたことまっすぐ意見にし 行動を起こせる彼らを尊敬します。そして、自分たちの力で“変えられる”という意識を持っていることも素晴らしいと思います。」とコメントを寄せられました。

そして、昨年2022年10月16日には、渋谷でライブイベントとして開催されました。

その開催チラシには、彼らの熱い思いが溢れています。

< MESSAGE >

このままだと、ウチらの未来がやばい。

アメリカでは、熱波による森林火災で、東京の約 2 倍の面積がたった 7 日で焼失した。

グリーンランドでは、1960 年に比べ 6 倍のスピードで氷が溶け、ベネチアでは、過去 50 年で最悪の高潮が甚大な被害をもたらした。

このままだと、日本の未来がやばい。

「100 年に一度」のはずの豪雨が毎年のように発生し、「過去最大」がいつも簡単に更新されていく。

2019 年には、気候変動による自然災害の損失総額が、なんと世界 1 位だった。

なのに、日本には圧倒的に危機感が足りない。

もはや気候「変動」なんてものじゃなくて、一刻の猶予もない気候「危機」なのに。

このまま舵取りを誰かに任せっぱなしにして、

これまでの価値観やルールのもとで、

これからを生きる私たちの「未来」を左右されてもいいんだっけ？

だから今、本当に手遅れになる前に。

未来を生きる私たちの声をひとつにし、無視できない大きさにして届けよう。

世界中の若い世代の意識と、声と、行動があれば、

必ず世界は、軌道修正できるから。

今年も、Climate Live Japan は、10 月に渋谷でライブイベントとして開催されるとのことです。そこでは、音楽ライブの他、トーク、パネル展示、古着 T シャツ回収などが行われる予定です。

音楽を通して、環境問題への関心を広げようという若者の動きは、本当に頼もしいと感じます。しかし、こんな環境を未来に残してしまったのは、大人の責任です。誰よりもまず、大人世代が環境に関心をもって、「何とかしなくちゃ」

と行動を起こさなくてはいけないと考えます。なぜならば、地球環境問題は、私たち一人ひとりの日常ととても密接につながっていて、その蓄積が今を創っているからです。

Climate Live Japan の若者たちは、

「本当に手遅れになる前に。

未来を生きる私たちの声をひとつにし、無視できない大きさにして届けよう。」

と呼びかけています。

現実を伝え、「これでいいの?」「何とかしなくちゃ!」という危機感を広げていくことが大切です。「もう間に合わない」は無責任です。少なくとも教育に携わる者は決して諦めてはいけないと思います。そんな諦めの心で、未来に向かって伸びようとする子どもたちに授業などできません。明るい未来を信じ、創っていく意思があるからこそ、行事で「頑張れ」「負けるな」と励ましますし、ときには「いいんだよ」と抱きかかえてあげられるのではないのでしょうか。未来のために今を大切にすること、今を大切にすることが未来につながっていくことを信じてすすんでいきたいですね。